

なぜ、銀行があるの?



A ひとことアンサー

余裕がある方からお金をお預かりし（預金業務）、必要とする方へ貸出すことで（貸出業務）、社会をより豊かにするためです。また、皆さんの日々のお金のやりとりを円滑かつ確実に行うこと（為替業務）により経済活動を支えることも銀行の大切な責務です。これらを「銀行の3大業務」といいます。



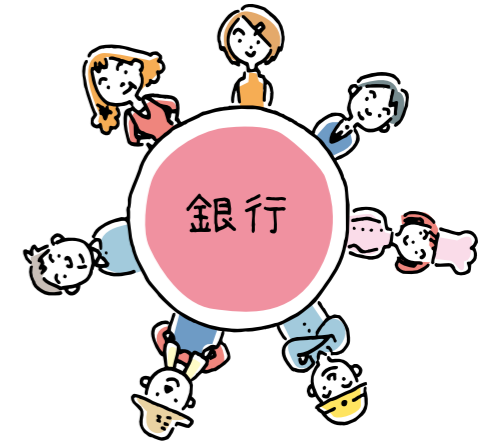
もしも銀行がなかったら…。

ある日突然、銀行などの金融機関がなくなってしまったらどうなるか、想像してみてください。

たとえば、給与が現金で支払われたら帰り道が不安…、電気やガスなどの毎月の公共料金をひとつひとつ支払う手間を考えただけで…、子どもへの仕送りは…、お金の保管用に金庫を買わなくちゃ…、ローンができないとマイホームは遠い夢…など、次々と問題が浮かんでくるはずです。その他にも、道路や学校、病院の建設といった生活基盤の整備が滞るなど、社会に大きな影響がでてきます。

銀行はこうした問題を解決するためにあるわけですが、現在の銀行は3大業務以外にも、お客さまのニーズにお応えできるよう、保険や投資信託の販売などさまざまな業務を行っています。

一方で、決済業務などの得意分野に特化したり、店舗を持たずにインターネットに特化したりするなど、銀行のタイプも多様化しています。



どの金融機関も基本的な役割は同じです。

銀行とよく似た金融機関として、信用金庫、信用協同組合、労働金庫、農業協同組合、漁業協同組合といった協同組織金融機関がありますが、その業務内容や役割は基本的に同じです。それらの金融機関も銀行と同じように「預（貯）金・貸出・為替」業務を行っています。ただし、その営業地域や預貯金の受入れなどに一部制限があります。

また、「メガバンク」「地方銀行」などの名称をよく聞きますが、これらは規模や性格を表すため便宜的に使われているものであり、法律上の区別はありません。



CSR (企業の社会的責任) への取組み Corporate Social Responsibility

銀行は融資（貸出）業務等の銀行業務や社会貢献活動を通じてCSR活動を実施し、社会・環境のいろいろな課題の解決に貢献する取組みを行っています。

全国の銀行等の金融機関のうち、78%にあたる518機関が、「地域との共存共栄」等を目的とし

て、福祉や地域イベント、環境保護、金融教育等の取組みなどを幅広く実施しています。具体的な取組みについては、各銀行のディスクロージャー誌（p28参照）や、ホームページをご覧ください。

※資料：金融庁「金融機関のCSR実態調査（2006年）」